

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月 12日

【評価実施概要】

事業所番号	4270300363		
法人名	医療法人 済家会		
事業所名	グループホーム ふれあい		
所在地	〒855-0866 長崎県島原市南下川尻町8189-2 (電話) 0957-64-3663		
評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年3月4日	評価確定日	平成20年3月28日

【情報提供票より】(H20年1月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	13年	4月	1日
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人	
職員数	8人	常勤	7人	非常勤 1人、常勤換算 4.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	3階建ての	階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0円	その他の経費(月額)	実費	円
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000円	

(4) 利用者の概要(1月15日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名	
要介護1	2名	要介護2	4名			
要介護3	2名	要介護4	0名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	83歳	最低	75歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	柴田長庚堂病院・島原保養院・喜多歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

認知症の専門医がいる医療系が母体である当ホームは、入居者の体調管理・認知症の進行を抑える事に関しては自信をもって対応出来る為、ご家族からの信頼も厚い。また隣には広い公園があり、散歩される方や遊びに来る子供達の活気ある声が入居者に笑顔呼び起こしてくれる。他にも小学校や保育園の子供達が慰問に訪れている写真を拝見し、楽しそうな雰囲気が伺えた。また地域の方にグループホームを理解して頂く為の工夫として、家族の同意をもって自治会の回覧板にホーム便りを挟むなど、地域を意識された取り組みがなされている。ケアの面で重要視されている点は、入居者は人生の先輩であることを心に留め、ゆっくりと過ごして頂くことを心がけられている。そのため職員の対応も穏やかで、笑顔で働かれおり、入居者も、職員と共に穏やかに過ごされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点に関しては改善計画シートを用いられ、全職員で取り組まれている。改善点は内部研修や記録の方法で、現在も前向きに取り組まれている。特に内部研修に関しては、ケア会議の際に外部研修の資料や報告書を利用され、職員全員で研鑽に努めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員一人ひとりが付箋に気づきを記入されたり、ケア会議にて話し合いをされるなど、全員で取り組まれている。また働きやすい環境作りなどの課題点も管理者は考えられ、今後に繋げる意欲を伺った。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は家族会の代表・市町村の代表・ホーム代表・民生委員が参加し、2ヶ月に1度開催されている。民生委員の方から意見や行事の紹介を頂くなど、内容を深められており、入居者の状態や生活状況、介護の内容を茶話会などで交流されながら取り組まれている。また運営推進会議録も毎回記録され、参加者には次回の予定を確認されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	半年に1度、家族会を開かれており、入居者とご家族とのふれあいをお互い大切にされ、日々の暮らしぶりを体験を通してお伝えしている。ご家族の意見に関しては面会時にも尋ねられており、要望があった際には会議で検討し、解決、改善に向けて取り組むことに対応されている。また意見箱は玄関に設置され、相談の窓口は重要事項説明書に記載されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	当ホームの横にある公園の清掃を積極的にすることで、公園を利用される方々とコミュニケーションを図られている。小学校の運動会の見学や中学生の福祉体験学習を受け入れる中で子供達との触れ合いを大切にされている。また自治会に参加され、回覧板に当ホームの便りを活用して、グループホームについて、知って頂く努力をされるなど、地域と切れない関係を築かれている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームが今後さらに地域の中で生活される事の重要性を意識され、今回の理念に『住みなれた地域の中でその人らしく暮らし続ける』という文言を追加することで、地域の中で生活されることを念頭に置かれたケアを心がけている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所などの目に付くところに理念の掲示をされ、ケア会議の中でも理念の共有を図るために話し合われている。また今後は名札の裏に介護理念を記入することで、さらなる共有を図る意向である。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	当ホームの横にある公園の清掃を積極的にすることで、公園を利用される方々とコミュニケーションを図られている。小学校の運動会の見学や中学生の福祉体験学習を受け入れる中で子供達との触れ合いを大切にされている。また自治会に参加されるなど、地域と切れない関係を築かれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は付箋に気づきを載せたり、ケア会議にて話し合うなど、全職員で取り組まれている。また外部評価の実施に関しても、評価されることでホームがさらに良くなる事を認識され、改善計画シートを用いられて検討もされている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族会の代表・市町村の代表・ホーム代表・民生員が参加し、2ヶ月に1度開催されている。入居者の状態や生活状況、介護の内容を茶話会などで交流されながら取り組まれている。また運営推進会議録も毎回記録され、参加者には次回の予定を確認されている。		

グループホーム ふれあい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者である介護保険課の職員の方には、運営推進会議を通して顔なじみで気軽に話しができるようになっており、共に学びながらサービスの質の向上に取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事などに参加され、楽しそうな入居者の様子等を記載したホーム便りを毎月発行し、家族に届けている。また金銭出納帳をご家族に確認していただき、確認印をいただいている。家族会は年2回であり、1回は意見、要望を話し合う会議として、もう1回は交流会とし、入居者と家族とのふれあいの時間の中で体験を通して、ケアの実情を知っていただき、理解を得ることを目的として取り組んでいる。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は玄関に設置され、相談の窓口は重要事項説明書に記載されている。また面会時に要望等ないか、尋ねられており、ご家族の要望があった際には、会議で検討し、様々な工夫をすることで対応されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による入居者のダメージについて理解されており、極力異動や離職がないよう働きやすい環境を考えられている。例えば勤務表を作る際、職員の意向を大切にされ、出勤日を優先的に選べるように工夫されている。また新人職員には初めの1ヶ月間、先輩職員のサブについてもらい、入居者に馴染んでいただく工夫をされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアに重要な研修には、極力参加出来るよう職員にお知らせするなど、工夫されている。また過去には復命で研修に参加された事もある。法人の学習会には認知症の方に対する接遇など学ばれ、ケア会議で情報の共有を図るなどの取り組みをされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケア研究会に参加されることで同業者との交流を図られ、サービスの質の向上に取り組まれている。		今後もさらに同業者との交流を通して、管理者や職員も他の事業所と相互訪問で接遇や記録方法等学びを深められ、マンネリ化の予防と、サービスの質の向上をさらに取り組まれることに期待したい。

グループホーム ふれあい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>法人内の施設から当ホームへ入居される方が多く、入居されるまでにレクリエーション等を通して様々な行き来があり、互いに顔なじみになっている事が多いため、安心されながら入居されている。また当ホーム側もご家族に生活歴などを尋ねるなど、スムーズに馴染める工夫をされている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>戦争中のご苦労されたお話や童謡の歌詞に込められた願い、地元の様々な風習や方言などを学ばせていただくことで、支え合う関係を築かれている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントや生活歴の把握に努められている。また困難な方には表情や言葉のかけ方など工夫されている。職員同士も入居者との生活の中での気づきは申し送り表やノートに記入し、意向の把握の共有に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎月行われるケア会議には、全職員が参加され、具体的な介護計画を作成されている。また法人内の認知症専門医とも相談されながら作成されている。ご家族にも同意のサインを頂いている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的に半年に1度、介護計画の見直しをされており、状態変化の際には随時、介護計画の見直しをされている。また業務日誌などに日々の問題や行動の記録がされている。</p>		<p>さらに今後は、毎月モニタリングされることで介護計画の経過、入居者が現行の介護計画に適しているかを検討されることが望まれる。また介護計画に反映された記入方法をさらに深められ、入居者の微かな状態の変化を把握されることに期待したい。</p>

グループホーム ふれあい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携による往診や日々の健康管理は、自信を持って支援されている。また長期入院することで介護度が変化しないように早期退院の話合いをされ、法人内の理学療法士や作業療法士の協力も得られる。時にはご自宅への送迎なども支援されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の医療機関を大切に、かかりつけ医による受診を実施されている。当ホームの母体にも24時間相談・指導が仰げる関係を確立し安心へ繋げている。また2週間に1度の定期受診の支援も行われている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関して入居者やご家族との話し合いによって、希望を尋ね、退所を望まれる場合には退所先もお世話されている。また書面も用意され、同意も得ている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報などは事務所に保管され、人目に触れない工夫がされている。また言葉かけに関しては生活歴を利用され、一人ひとりに応じた声かけをされている。また慣れから来る言葉かけの乱れには特に注意をされ、職員同士で気づきを伝えている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事は入居者のペースに合わせており、ゆっくり食事してもらいようにされている。また生活歴を利用して、個々の趣味である踊りや行きつけの美容院の送迎など、その人らしい暮らしの支援をされている。また入居者の自立心を信じ、行動に対するストップを掛けないよう、安全に留意しながら支援されている。		

グループホーム ふれあい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的な食事は法人内の食事を提供されているが、おやつ作りや茶碗拭き等、入居者の状態に応じて支援されている。食事も刻み等の形態食、アレルギーのある方への配慮といった対応がなされ料理の好みなども把握され、おいしく食事される工夫がなされている。また、もっと楽しい食事の支援を目指されており、手作りのケーキ作りや干し柿作りも入居者と共に作られている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夏場は汗をかくため毎日入浴され、現在は1日おきに入浴支援されている。入浴されない日は清拭を用いて、清潔保持をされている。また入浴の順番は入居者の意向を踏まえながら順繰りにされ、入浴を楽しめるよう工夫されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	当ホームには掃除の日があり、畳拭きなどをされている。またチューリップの水やりや雑巾縫いなどは自分の役割として励まれている。時には習字やペン画などの楽しみごとの支援をされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に近くの公園へ、全員で散歩やピクニックに出かけられたり、当ホームの駐車場などでベンチに腰掛けて日光浴が行われている。また入居者の誕生日には外食されるなど、外出支援を心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関のセンサーを利用してさり気ない見守りや、時には同行することで鍵を掛けないケアの実践に取り組まれている。また敷地内にある保養院等の職員も気がけて声を掛けてくださる事もある。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災の避難訓練をされており、夜間を想定した避難訓練も記録もされている。また広域避難場所の把握や避難の手順、掛かり付け医への連絡網も用意されている。		さらに今後は、風水害や地震の災害も想定され、備蓄や重要持ち出し品など、ライフラインの確保を検討されることに期待したい。

グループホーム ふれあい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるカロリーチェックをされた食事が配給されている。また食事量や水分摂取などもチェック表を用いて確認されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的にはリビング兼食堂で過ごされる事が多く、テーブルやイスなどの用意がある。また廊下にもイスが並べられ、入居者同士が腰掛けながら談笑されている。浴室は広くゆったりしている。庭にはベンチが用意され、一人でのんびりできるなど、それぞれの入居者が居心地よく過ごせる工夫がされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、半分以上が畳敷きになっており、そこに箆箆やテレビ、衣紋掛けなどが置かれ、その人らしい部屋になるよう、支援されている。		